

謹賀新年

12月14日 白沢海岸



枕崎市長
神園 征

平成28年(2016年)が
いい年でありますように
皆さまのご健勝、ご多幸、ご活躍を
心からお祈りします

昨年の主な出来事を簡単に振り返り、新年の施策にも触れてみたいと思います。

3月22日には、枕崎駅周辺整備完成記念式典が行われました。はるばる稚内から工藤市長、ご一行をお迎えしての賑やかな祭典になりました。友好都市である稚内市との縁も増々深まり、双方の物流、人的交流も盛んになっています。両都市のコンカツ(婚活)事業によって縁が生まれ、枕崎の女性が稚内の隣町に嫁いでいくといった事もありました。

8月25日には台風15号による高潮被害など、昭和26年のルース台風を思い起こす程でした。

9月には枕崎フランス鯉節の工場が着工され、関係する加工業者らが渡仏し、また、フランスからは立地するブルターニュ州の議長を始めとする関係者9名が枕崎を訪れてくださいました。いよいよ今年の秋頃には、フランスで鯉節の生産が始まることと思います。枕崎人の進取の精神が発揮される喜ばしいことです。

10月には枕崎市で全国の特定第三種漁港の市長協議会が開かれました。特定第三種漁港は枕崎を含め、全国に13都市あります。その市長会は、嘗ては毎年、東京で開

かれておりましたが、私は「13都市を順に廻って開催すべきだ」と提案し、今ではそのようになっていました。枕崎での開催は初めてでした。

10月31日、11月1日の両日は国民文化祭が開かれ、枕崎会場では日本料理の老舗「なだ万」の木浦信敏社長(桜山出身)の「出汁取り実演」や、36代立行司の木村庄之助(本名「山崎敏廣」さん(山手町出身))ご本人出席の上で、行司装束の展示や色紙の揮毫などがあり賑わいました。

さて、平成28年です。大きな目玉になるのは「枕崎国際芸術賞展」です。

平成28年の夏に開催する「枕崎国際芸術賞展」は、これまで25年にわたって開催してきた「風の芸術展」の実績を基に、枕崎の新時代に期待をかける新たな芸術公募展として出展します。これまでも平成26年に文化勲章を授与された野見山暁治先生を中心に、錚々たる方々が審査員を務めてこられました。枕崎国際芸術賞展では、審査員の先生方が一新しますので、風の芸術展とは違った意味で異なった感覚の作品が寄せられるものと期待しています。審査員の先生方を紹介しますと、この芸術展の開催を提案していただくな

ど、最初から関わっていただいている芸術家が、日本画家でニューヨークを中心に活躍されている千住博先生です。因みに千住先生の弟は作曲家の千住明さんで、妹はバイオリニストの千住真理子さんです。エッセイストの母親も含め著名な芸術一家です。また、ほかの審査員お二人も東京芸術大学教授で美術学部長の保科豊巳先生と台湾の台北芸術大学教授の曲徳益先生という日本と台湾を代表する芸術大学の先生方です。そのため、日本と台湾はもちろん他の地域からも学生や若者の出品が増えると思います。創作意欲に満ち溢れた新進気鋭の若い作家による斬新な作品、海外作家によるエキゾチックな作品が増えるのではと期待が膨らんでいます。また、この3名の審査員の先生方は、昨年6月に東京で開催された「アートオリンピック2015」という国際的な芸術イベントでも審査員や実行委員として活躍されておられます。今回、枕崎国際芸術賞展を開催するに当たり、海外からの出展者や製作に苦勞している若い芸術家が出展しやすいように工夫しました。書類(写真)審査となる第1次審査は出展料を無料にして、実際の作品を搬入する第2次審査は、平面の作品のサイズを本人負

担の搬送経費が少なくなるように、130号以内から50号以内へ変更しました。作品のサイズが小さくなるということは、これまでよりたくさん作品展示が可能になりますので、入選作品数も増加する予定です。国内はもちろん、海外から多くの作品が寄せられることで、作家やその関係者を始めとして、本市への訪問者が確実に増えるでしょう。この「枕崎国際芸術賞展」は、観光や経済、国際交流面でも大きな潜在能力を秘めていますので、市民の皆さんがさまざまな立場で地域の活性化に繋がっていただきますようお願い申し上げます。

国際芸術賞展の後には、10月30日に「柳田孝子抒情歌コンサート」が開催されます。柳田孝子さんのコンサートは平成26年に第1回目を開催しましたが、終わって直ぐに市内外の方々から「来年も開いてください」との声が多く寄せられました。しかし、如何せん彼女はカナダ在住で海外の公演も多いため、この日程でお願いするのがやっとでした。きつとまた、素晴らしい歌声を披露してくださるでしょう。ご期待ください。

今年も幸多い一年になることを期して一緒に頑張りましょう。